

第1学年2組 道徳学習指導案

平成24年5月29日(火)第3校時

授業者 教 諭 (T 1)

栄養教諭 (T 2)

1 主題名 元気な体 1-(1) 基本的な生活習慣

2 資料名 うんこのはなし(日本標準)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

基本的な生活習慣をしっかりと身に付けることは、児童の人間形成において極めて重要なことである。

私たちは食べたものを体の中で栄養として取り入れ、消化し、残った物を「うんこ」として体の外に出している。排便をするということは、人間が生きていく上で絶対に欠くことができない生理現象で、自分自身の体の健康状態を知る大切なものである。入学して約2か月経ったこの時期に、規則正しい生活をして望ましい排便の習慣を身に付けさせることをねらいとしている。

(2) 児童について

男子13名、女子15名、計28名のクラスである。児童は学校生活に慣れて、明るく元気に活動している。児童の排便と朝食について実態を調べた。

1 うんこは、いつ出ますか。

朝、学校へ来る前	7名
学校にいるとき	3名
家に帰ってから	5名
決まっていない	13名

2 朝ごはんを食べていますか。

毎日食べる	24名
時々食べない日がある	4名
ほとんど食べない	0名

調べた結果、入学前より朝自宅を出る時刻が早いためか、登校前に排便をすませて気持ちよく1日を始めている児童は7名しかいなかった。朝ごはんはほとんどが食べているが、ときどき食べない児童が4名いた。児童は、5月中旬の「もりにこウィーク」で「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでいるが、今後も継続して望ましい生活習慣を身に付けられるようにしていきたい。

(3) 資料について

「うんこ」という日常敬遠されがちな排泄についての話が取り上げられている。うんこをするときの気持ち、うんこが出るしくみ、うんこと健康について書かれていて、排泄の大切さを再認識できる。また、うんこをすることは人間が生きていくために絶対必要なことであり、それを冷やかしたりからかったりすることはおかしいと気付く内容になっている。このように、自分自身の健康について考えるきっかけとなる資料である。

(4) 指導について

本年度、『「未来につながる力」を支える自ら学ぶ意欲を引き出す学習の導入の仕方の工夫』を研究の柱として、導入の仕方、課題の投げかけ方、楽しく力がつく学習の工夫などを研究している。本時では、導入でレッサーパンダのうんこの実物を見せて興味・関心を高める工夫と、視覚に訴える資料や動作化を取り入れて集中して楽しく学ぶ工夫を考えた。また、基本的な生活習慣を身に付けることは生涯を通して大切なことなので、栄養教諭の専門的な指導を入れて、生活リズムを整える大切さを指導したい。

資料は、「うんこからの手紙」として読み聞かせ、うんこからのメッセージとして、

排便は人間が生きていくために非常に大切であることをとらえさせる。その際、消化のしくみの絵で食べ物がうんこに変わる流れをつかませたり、体にうんこがたまると病気になることを、うんこを数回ブロックに見立てて実感させたりして、病気にならないためにどうするとよいかを考えさせていく。便意を感じてもがまんして出さないことは体によくないことを知らせ、どうしても行きたい時は行った方がいいこと、また、それを冷やかしてはいけないことに気付かせる。望ましい排便の一連の流れを歌のように唱えながら動作化させて、実践につなげられるようにしたい。終末で、栄養教諭から朝排便することのよさや朝ごはんの大切さを知らせて、改善していこうという意欲をもたせ、自分の体のために規則正しい生活をしようとする意欲を高めたい。

さらに、児童だけでは生活リズムの改善は難しいと思われるので、家庭に学習した内容を知らせて、協力を呼びかけていきたい。

4 本時のねらい

排便の大切さを知り、健康に気を付けて生活リズムを整えようとする態度を育てる。

5 準備物

レッサーパンダのうんこ、飼育係の話のテープ、消化の仕組みの絵、数回ブロック、うんこの絵

6 本時の展開

過程	主な発問と予想される児童の反応	支援（・）と評価（☆）	
		T 1	T 2
気付く	<p>1 レッサーパンダのうんこを見たり、飼育係さんの話を聞いたりして、気付いたことを発表する。</p> <p>○これは、何でしょう。 （ヒント：ある動物のうんこです。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬のうんこ ・猫のうんこ <p>○レッサーパンダの飼育係さんは、どんな話をしていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物は、竹の葉・くだもの。 ・食べて4～5時間後にうんこをする。 ・うんこで健康かどうかをみている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が見つけたうんこの様子を手掛かりに、一緒に考えるようにする。 ・人間も同じで、赤ちゃんのうんこで健康状態をチェックしていることを補足する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を見せて興味をもたせる。 ・便は健康状態をチェックできる重要なものであることに気付かせる。
考える・深める	<p>2 資料「うんこのはなし」を読んで話し合う。</p> <p>○うんこをするとき、どういう気持ちになりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すっきりする。 ・くさくて、きたない感じがする。 ・はずかしい。 <p>○食べ物は、みんなの体の中で、どのようにうんこに変身していくのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口に入れて、嚙んでどろどろになる。 ・食べ物の栄養が体に入る。 ・食べ物のカスが溜まる。 <p>○うんこをししないで体にためておくと、どうなるでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うんこからの手紙として資料を読み聞かせる。 ・どんどんたまっていく様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を用いて、うんこができる仕組みを説明する。
考			

<p>え る ・ 深 め る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんどん体にうんこがたまる。 ・ (おなかがはって,) おなかが痛くなる。 ・ 病気になる。 <p>◎ 病気にならないために, どんなことに気を付けるとよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日食べるから, 毎日うんこを出す。 ・ うんこをがまんしないで出す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ① ご飯食べて ② よくかんで ③ どろどろになって体の栄養 ④ 残りはカス (うんこサイン) ⑤ うんこを出して ああ, すっきり ⑥ おしりをふいて ⑦ 流しましょう </div>	<p>を数回ブロックを使って表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で排便する人を冷やかさないことを押さえる。 ・ 歌のように唱えながら, 動作化させる。 <p>☆ 食べ物がうんこになるまでの動きをして, よりよい排便のリズムをつかもうとしていたか。 (動作)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童と一緒に動作する。
<p>見 つ め る</p>	<p>4 自分の排便習慣を見直す。</p> <p>○ 今までに, 体にうんこがたまったことはありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何日もうんこがでないことがあった。 ・ おなかがいたくなった。 ・ 気分がわるくなった。 	<p>☆ 自分の健康について考えることができたか。 (発言)</p>	
<p>高 め る</p>	<p>5 栄養教諭から話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よいうんこは, 「バナナうんこ」。 ・ 早寝, 早起き, 朝ごはんが大事だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「もりにこウイーク」の実践をこれからも続けていこうと呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝食を食べると, 腸を刺激して排便を促すことを知らせ, 朝食の大切さを押さえる。

7 授業の観点

- ・ 食べ物がうんこになるまでの動作化を取り入れたり, 栄養教諭の話の聞いたことは, よりよい生活のリズムを作っていこうとする意欲をもたせるために効果的だったか。